

様式（評価結果の公表）

評価結果調書

1 対象事業の特定

項目	内容
事業名	北千里小学校跡地複合施設整備事業
担当部署	児童部子育て政策室、地域教育部まなびの支援課、地域教育部中央図書館
事業目的	多世代が集い、世代間交流の促進によるまちの活性化を図るため、北千里小学校跡地において、子育て・学びの拠点づくりとして児童センター、公民館、図書館の3機能を備えた複合施設を整備する。
事業内容	北千里小学校跡地に上述の目的を達成するため、児童センター、公民館及び図書館を建設する。
採用手法	BT0方式（建設Build-移転Transfer-運営等Operate）

2 評価結果

<p>(1) 簡易な検討における評価</p> <p>ア 定性的な評価</p> <p>BT0方式を選択した場合、利用者の満足度向上に向け一定の取組が期待できるが、多岐にわたる地域住民のニーズに素早く応えられるサービスの展開・充実や、地域人材の活用など地元根付いた運営は難しくなる。また、BT0方式を採用した場合は8か月程度供用開始が遅れる。</p> <p>イ 定量的な評価</p> <p>BT0方式で整備を行った場合、VFMは-3.8%となり現在価値が低くなる。本事業は都市構造再編集中支援事業補助金の活用を想定しており、BT0方式（事業期間10年）の場合は交付金を最大限活用できない。</p>
<p>(2) 従来型手法の選定理由</p> <p>BT0方式を採用した場合、PPP/PFI手法による民間事業者の創意工夫の活用が十分に期待されるが、従来型手法とした場合も、プロポーザル方式等で同様の提案を受けることができる。また、BT0方式では、事業期間中の契約変更が容易でないため、本地区と隣接する千里北地区センターとの環境形成（動線の配慮等）が十分に連携できないことが考えられる。</p>

さらに、本事業は都市構造再編集中支援事業補助金の活用を想定しており、BT0方式（事業期間10年）の場合は交付金を最大限活用できず、VFMも従来型手法と比較し、-3.8%となり、現在価値が低くなる。

これらのことから、総合的に判断し、従来型手法を選択する。